

ほ ぞん ばん
保存版

令和2年度
改訂版



いちき串木野市
ICHIKIKUSHIKINO CITY

防災 マップ



いざというときに備え、

日頃から避難場所、避難経路、家族の連絡先、避難時の心掛けなどを、
この防災ガイドブックと防災マップをもとに話し合ってください。
役立ててください。

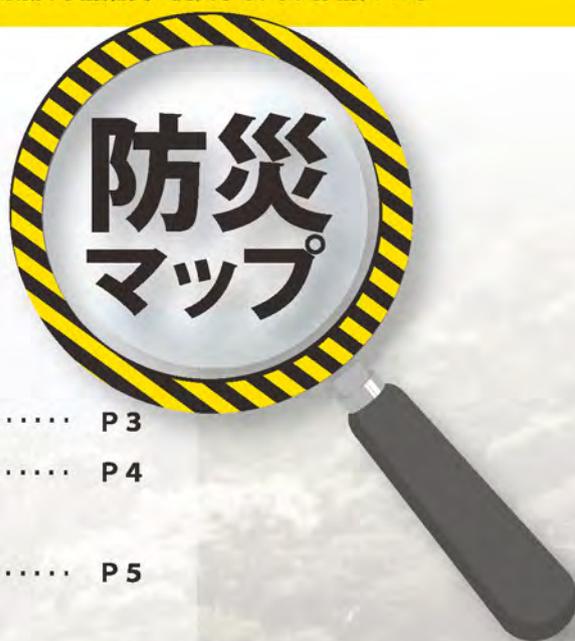
地域防災推進 3原則

自助 共助 公助

「自助」とは、自ら（家族も含む）の命は自らが守ること、または備えること

「共助」とは、近隣が互いに助け合って地域を守ること、または備えること

「公助」とは、市役所や消防・警察による救助活動や支援物資の提供など、公的支援のこと



目次

防災マップの使い方と避難について

防災マップの使い方・避難時の心得 P 3

避難所生活の注意点・避難所でのマナー P 4

風水害

雨の強さと降り方(1時間雨量) P 5

大雨(洪水)の前兆【洪水は氾濫はどうやって起こるのか】

土砂災害の種類・土砂災害の前兆 P 6

地震の安全対策

家の外の安全対策【災害に備える7のポイント】 P 7

家の中の安全対策【災害に備える4のポイント】

避難のタイミングとポイント・地震発生時の行動 P 8

津波・浸水

津波 P 9

大雨(洪水)の前兆・浸水の目安と心得 P 10

わが家の防災対策

防災について話し合う・防災会議のテーマ P 11

災害時に備え、書き出しておきましょう P 12

最低限揃えておきたいもの P 13

災害復旧までの数日間自活するために用意するもの【二次持ち出し品】

その他の持ち出し品

チェックリスト P 14

避難情報

避難情報の種類・情報の伝達経路 P 15

いちき串木野市防災情報等メールサービス P 16

雨量情報テレフォンサービス

避難所一覧 P 17

防災マップ索引図 P 18

防災マップ P 19~54

津波浸水全域図 P 55~74

防災マップの使い方と避難

この防災マップは、災害の発生により被害が想定される内容、場所を事前に知っていただき、災害に備えていただくことを目的としています。

■ 防災マップの使い方

まず、自宅の位置を確認しましょう。

災害が想定される位置を確認しましょう。自宅がある場所は、どのような災害が予想されるのかを、地図をみて確認しましょう。



災害想定区域を避けて、避難経路を決めましょう。

避難経路を地図で確認し、土砂災害や津波などの災害が想定される場所を避けて避難できるようにしましょう。



次に、自宅付近の避難所を確認しましょう。

自宅に一番近い災害に応じた避難所を地図で確認しましょう。



実際に避難経路を歩いてみて、安全を確認しましょう。

家庭や地域で話し合いながら、実際に歩いてみましょう。避難経路に危険な場所がある場合には、避難経路を見直しましょう。



■ 避難時の心得

正確な情報収集と早めの行動を



ラジオ・テレビ・インターネットなどで最新の気象情報や避難情報などの災害情報を入手しましょう。危険を感じたら早めの行動を心がけましょう。火元等の確認も忘れずに。

自動車での避難は控えて



自動車での避難は、緊急車両の交通の妨げになりますので、特別な場合を除きやめましょう。

お年寄りなどの避難に協力を



お年寄りや子供、病人、障がいのある人は、早めの避難が必要です。近所のお年寄りや子供、病人などの避難に協力しましょう。

動きやすい服装、2人以上での避難



避難するときは、動きやすい服装で、2人以上での行動を心がけましょう。その際には、さぐり棒を持ち、側溝や排水路に転落しないように注意しましょう。

避難の呼びかけに注意を



危険が予想される状況となった場合には、市役所や消防団などから避難の呼びかけをすることがあります。避難の呼びかけがあった場合には、それに従いましょう。

道路・堤防に車を放置しない



水防活動の妨げになりますので、自動車を堤防や道路に放置しないようにしましょう。

について

■ 避難所生活の**注意点** 避難所での**マナー**

避難所での生活は、不慣れな環境で多くの人と共同生活を送ることから、精神的に大変なストレスをもたらすこととなります。そのため、一人ひとりが避難所のルールを守るとともに、お互いに協力し、ゆずりあって生活を送れるように心がけましょう。

心得5か条

避難所では、避難してきている人たちみんなが災害に遭い、みんながつらい思いをしています。こんなときだからこそ、みんなで思いやりを持ち、協力しましょう。

周囲への心配り

自分がされたくないことをしないよう、周りの方への心配りをしましょう。



要配慮者への気配り

お年寄りや体の不自由な方など、要配慮者への気配りを心がけましょう。



助け合い

困った人がいたら積極的に助けましょう。



惑わされない

うわさやデマに惑わされないようにしましょう。



ルールや役割を守る

避難所内で決められたルールや役割は守りましょう。



風水害

風水害って
どんな災害ですか。

強風と豪雨により、浸水や洪水、土砂崩れ等
が発生する災害です。
高潮等によるものも含めています。



雨の強さと降り方（1時間雨量）

10～20mm未満
やや強い雨



地面一面に水たまり
ができ、話し声が
聞き取りにくくな
ります。長雨になり
そうなら注意が必
要です。

20～30mm未満
強い雨



土砂降りの雨。傘
をさしていても濡
れてしまうほどの
雨です。小川なら
氾濫、また、がけ
崩れの心配もあ
ります。

30～50mm未満
激しい雨



がけ崩れが起こ
りやすくなり、危
険地帯では避難
の準備が必要です
。道路規制が行
われることがあ
ります。

50～80mm未満
非常に激しい雨



滝のように降り
、あたりが水しぶ
きで白っぽくなり
、傘は全く役に
立たなくなります
。土石流が起こ
りやすくなり、多
くの災害が発生
する可能性があります。

80mm以上
猛烈な雨



息苦しくなるよ
うな圧迫感があ
ります。大雨によ
る大規模な災害
が発生するおそ
れが強くなり、
厳重な警戒が必
要です。

大雨（洪水）の前兆【洪水はん濫はどうやって起こるのか】

舗装が普及した地域では、雨水が地中にしみ込みにくくなっていることも影響し、集中豪雨等により河川や排水路の排水処理能力を超えた雨水は低い場所に集まり、短時間のうちに浸水します。

たとえ近くに川がなくとも「水害」への注意が必要です。

河川の水に
よるはん濫
(外水はん濫)



大雨によって川の水
が増え始めます。



水位が上昇し、川
の堤防を越えて水
があふれます。

河川に排水
できない水に
よるはん濫
(内水はん濫)



降った雨は、排水路
などを通して川に
排水されます。



大雨が降ると川
の水位が上がり、
川に排水されず
に排水路などか
ら水があふれま
す。

※排水路の排水能力を超える雨が降った場合にも、内水はん濫が発生するおそれがあります。

土砂災害の種類



斜面崩壊
(がけ崩れ)



土石流



地すべり

急な崖地や山の斜面が突然崩れ落ちる現象を、斜面崩壊(がけ崩れ)といい、国内で最も件数の多い土砂災害です。

一瞬にして崩れ落ちるので、逃げ遅れる人も多く、被害が大きくなります。

このような被害を生じる恐れのある箇所を「急傾斜地崩壊危険箇所」といいます。

土石流とは、谷や斜面の土・石・砂が大雨による水とともに、一気に谷を流れ下る現象です。スピードが速く破壊力も大きいので、大きな被害をもたらします。

このような被害が生じる恐れのある溪流(渓谷や小川)を「土石流危険溪流」といいます。

粘土などの滑りやすい層の上にある斜面部が、しみ込んだ雨水等の影響などでゆっくり動きだす現象です。

一度に広い範囲が動くため、大きな被害をもたらします。

このような被害を生じる恐れのある箇所を「地すべり危険箇所」といいます。

土砂災害の前兆



山鳴りがする。



雨が降り続けているのに、川の水位が下がる。



川の流りが濁り、流木が混ざり始める。



斜面から水が噴き出す。



沢や井戸の水が濁る。



地面にひび割れができる。



小石がパラパラ落ちてくる。

覚えておきましょう



雨に注意しましょう

1時間に20ミリ以上、または降り始めてから100ミリの降雨量になったら注意が必要です。



逃げ方を覚えましょう

土石流は速度が速いため、土砂の流れる方向に対して直角に逃げるようにしましょう。



避難場所を決めておきましょう

日頃から家族全員で避難場所や避難する道順を決めておきましょう。

地震の安全対策

家の外の安全対策 災害に備える7のポイント

家の周囲にも災害が発生すると危険なところがたくさんあります。家の周辺やいろいろな小物の固定や点検、屋内への収納をしましょう。



① 屋根

瓦のひび割れ、ずれ、はがれの確認をする。

② ベランダ

鉢植えや物干し竿等は飛散するので、屋内へ収納する。

③ 危険物等

プロパンガスの固定、商店等では看板のぐらつき、家の外周を確認し、飛散物は固定若しくは屋内に収納する。

④ 雨どい・雨戸

雨どいに落ち葉が詰まっていないか。雨戸にガタツキはないか。

⑤ 外壁

モルタル壁やコンクリート壁等に亀裂はないか。板壁には腐り浮きはないか。ブロック塀等は、ひび割れや傾き、鉄筋にサビがないか。

⑥ 窓ガラス

ひび割れ、窓枠のガタツキ、強風による飛来物対策をする。

⑦ 庭木

枯れた枝や、腐食の激しい木はないか確認をする。

家の中の安全対策 災害に備える4のポイント



① 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋が幾つもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換える。

② 寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない

就寝中に地震に襲われると危険。子供やお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。

③ 家具は倒れにくいように置く

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱に寄りかかるように固定する。畳の上に置く場合は、家具の下に板を敷く。

④ 安全に避難できるように、出入口や通路には物を置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすい物を置かない。また、玄関にいろいろ物を置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。

避難のタイミングとポイント

身を守るためには、**早期避難**を心がけてください

火が燃え広がる危険が大きいとき

警察、市役所などから避難勧告・避難指示等があったとき

住居の倒壊の危険があるとき

状況から避難の必要があると判断したとき

家が無事で、地域に火災の危険がなければ、あわてて避難する必要はありません。

ただし、火の手や煙が近くに見えたり、焦げ臭いなどの危険を感じたときはすぐに避難しましょう。

その地域全体が、危険と判断された場合には、避難勧告が発令されますので、それに従い集団で避難してください。ただし、目前に危険が迫っているときは、個人の判断で避難する必要があります。

※市役所などからの避難の呼びかけがなくても、各人が洪水や土砂崩れなどの危険を感じた場合には、自主的に避難しましょう。

避難タイミングの **ポイント**

土砂崩れの危険性のある地域に住んでいる場合、直ちに避難する必要があります。大雨警報などの伝達の遅延や伝達ミスが起きる可能性があるため、警報を待たず避難行動を起こして下さい。

地震発生時の行動

地震発生

まず、身の安全

- ・机の下に入る。
- ・クッション、雑誌などで頭を保護する。
- ・家具から離れる。
- ・ガラス面から離れる。

大きな揺れを感じたり、緊急地震速報を受けたら、まず身を守り、揺れがおさまるまで待ちましょう。

普段から家の中の安全チェックをしましょう。住宅用火災報知器も設置しておきましょう。



2分
と
5分

大揺れがおさまった

- ・台所やストーブなど、火の始末をしましょう。
- ・避難の時は、プレーカーを落とし、ガスの元栓を閉めましょう。



5分
と
10分

家族の身の安全を確認、確保

- ・家族の安全の確認、確保
- ・災害情報、避難情報の入手
- ・避難のための出口の確保
- ・ガラス片や転倒家具に注意



10分
と
半日

隣近所の安否確認、助け合い

- ・倒壊家屋や転倒家具の下敷きになっている人の救出
- ・火災発生時の消火活動
- ・けが人の救護



半日
と
3日

2、3日分は自分でしのご

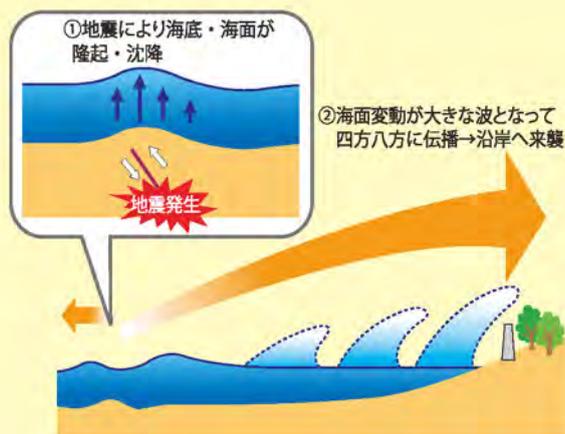
地震発生後数日間は、水道、ガス、電気、電話等ライフラインをはじめ、食糧の供給が途絶えます。2～3日は自分でしのげるように、日ごろから生活必需品(非常用品)を備えておきましょう。

津波・浸水

津波

地震・津波の発生

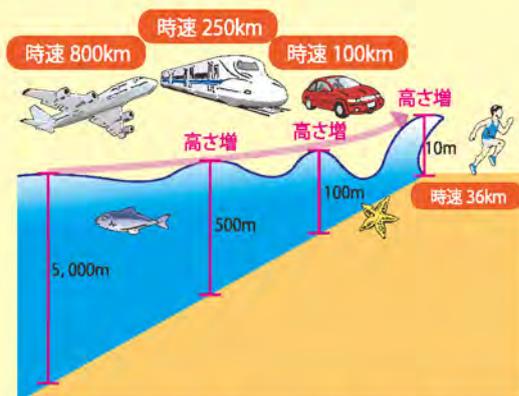
海底下で大きな地震が発生すると、断層運動により海底が隆起もしくは沈降します。これに伴って海面が変動し、大きな波となって四方八方に伝播するものが津波です。



津波の速さ

津波は、海が深いほど早く伝わる性質があり、沖合ではジェット機に匹敵する速さで伝わります。

逆に、水深が浅くなるほど速度が遅くなるため、津波が陸地に近づくとつれ、後から来る波が前の津波に追いつき、波が高くなります。



津波情報に注意する。

地震が発生したら、テレビやラジオ等を通して津波情報入手することが大切です。津波の到達時間が満潮時に重なった場合は発表値より高くなる場合もあります。

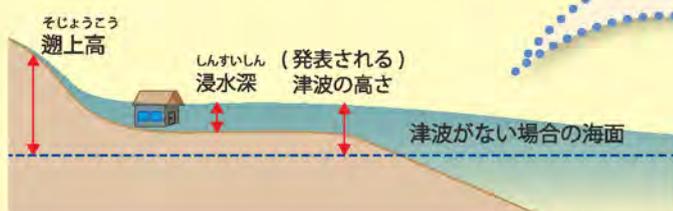


安全な場所に避難する。

津波警報等が発令された場合や強い揺れを感じた場合は、海岸沿いから速やかに高台に避難しましょう。

また、津波は第1波より第2波、第3波の方が高くなることもあります。

津波は繰り返し襲ってくるので、警報、注意報解除までは気をゆるめないようにしましょう。



地震が起きて津波のおそれがある場合は、予想される津波の高さにより、「津波注意報」、「津波警報」、「大津波警報」が津波予報区ごとに発表されます。

なお、発表される「津波の高さ」は、海岸付近での海面の高さのため、場所によってはこれよりも数倍高くなる場合があります。

また、満潮時や大潮の時も注意が必要です。

大雨（洪水）の前兆

洪水はん濫はどうやって起こるのか

舗装が普及した地域では、雨水が地中にしみ込みにくくなっていることも影響し、集中豪雨等により河川や排水路の排水処理能力を超えた雨水は低い場所に集まり、短時間のうちに浸水します。たとえ近くに川がなくても「水害」への注意が必要です。



※排水路の排水能力を超える雨が降った場合にも、内水はん濫が発生するおそれがあります。

浸水の目安と心得



- 2階床面が浸水する2階建て住宅では、避難が遅れると危険な状況に陥るため、住民は避難情報のみならず、出水時の水位情報等にも注意し、必ず避難所等の安全な場所に避難する。
- 高い建物の住民でも、深水が深く、水が退くのに時間を要することが想定されるため、事前に避難所等の安全な場所に避難する。

浸水深 0.5m ~ 3.0m 未満のエリア

- 平屋住宅または集合住宅1階の住民は、1階床上浸水になり、避難が遅れると危険な状況に陥るため、避難情報のみならず、出水時の水位情報等にも注意し、必ず避難所等の安全な場所に避難する。
- 2階以上に居室を有する住民は、浸水が始まってからの避難は水深0.5 m でも非常に危険なため、避難が遅れた場合は、無理をせず自宅2階等に待避、ただし、浸水が長時間継続した場合や孤立した場合の問題点について認識しておく必要があります。

浸水深 0.5m 未満のエリア

- 避難が遅れた場合は自宅上層階で待避する。ただし、浸水が長時間継続した場合や孤立した場合の問題点について認識しておく必要があります。

わが家の防災対策

防災について話し合う

災害はいつ襲ってくるかわかりません。被害を最小限に食い止めるためには、日頃の準備が大切です。定期的に家族そろって災害から身を守る方法について話し合っておきましょう。



防災会議のテーマ



家族一人ひとりの役割分担

日常の防災の役割と災害が起きたときの役割の両方を決める。

家屋の危険箇所チェック

家の内外をチェックして危険箇所を確認し合う。

家の中に安全な空間を確保

家具の安全な場所への配置換えや、家具の転倒や落下を防ぐ方法を考える。

非常持出品のチェックと取り替え

必要な品が揃っているかチェック。新しいものとの取り替えも忘れずに。



災害時の連絡方法や避難場所の確認

家族が離ればなれになったときの連絡方法や避難場所を確認する。できれば休日などを利用し、みんなで下見をしておく。



避難ルートを歩いてみよう

実際にまちを歩いて「防災マップ」を作ると、災害がおきた場合に「あそこは危険」とか、「避難のときはあの道を通ろう」といった具体的なイメージをすることができます。

災害時に家族全員が安全に避難できるよう、皆さんで避難ルートを歩いてみてはいかがでしょうか。



災害時に備え、書き出しておきましょう



家族の連絡先

名 前	生年月日	血液型	職場 / 学校	携帯電話 / メールアドレス

※近くのお年寄りや身体の不自由な方の名前も記入しておきましょう。

わが家の避難所

避難場所名	電話番号	住 所
第1候補		
第2候補		
第3候補		

家族が離ればなれになったときの集合場所

非常時持ち出し品の置き場所

わが家の防災対策

最低限揃えておきたいもの



懐中電灯

できれば一人にひとつ用意。予備の電池と電球も忘れずに。



非常食・水

缶詰など、火を通さずに食べられるものを。乳幼児がいる場合には粉ミルクなど。



携帯ラジオ

小型で軽く、AMとFMの両方を聴けるものを用意。予備の電池は多めに。



救急薬品 常備薬

キズ薬、ばんそうこう、解熱剤、かぜ薬、胃腸薬、目薬など。常備薬があれば忘れずに。



貴重品

現金、預金通帳、印鑑、免許証、健康保険証など。現金は硬貨も便利。



その他

ヘルメット(防災ずきん)、衣類、ライター(マッチ)、ナイフ、ビニール袋、紙おむつやほ乳びんなど。

災害復旧までの数日間自活するために用意するもの【二次持ち出し品】

非常食

缶詰やレトルト食品、ドライフーズや栄養補助食品、チョコレート・アメなどの菓子類、など。

飲料水

一人当たり、1日3リットルが目安。缶入りやペットボトルのミネラルウォーターのほか、ポリ容器にも水をためておく。

その他の持ち出し品

卓上コンロや固形燃料、予備のガスボンベのほか、毛布、寝袋、洗面用具、ラップ、使い捨てカイロ、ロープ、バール・スコップなどの工具、マスク、トイレトペーパー、新聞紙、簡易トイレ、予備のめがね、バイク・自転車、ドライシャンプーなど。

必要な防災グッズは必ず揃えてバッグの中にしまっ、すぐに持ち出せる状態にしておくことが大切です。

普段使うことがないからと、押し入れの奥や棚の奥にしまっている人も少なくはありません。実際に避難する時は一分一秒を争っている状態なので、押し入れの中を探している暇はありません。揃えた防災グッズは、玄関などのすぐに取り出せる場所に置いておくことが一番重要です。



最低でも3日分、できれば1週間分を目安に備蓄を行いましょ

ポイント



非常に広い地域に甚大な被害が及ぶ大災害の場合、食糧などの支援物資がすぐに届かないおそれがあります。そのため、ご家庭で非常食などを備えておくことも大切です。

チェックリスト



特に重要な持ち出し品には、チェックを入れて日頃より準備をしておきましょう。

最低限揃えておきたいもの

- 懐中電灯(乾電池)
- 非常食
- 水
- 携帯ラジオ
- 救急薬品
- 常備薬
- 現金(硬貨も便利)
- 衣類
- ライター(マッチ)
- ナイフ
- ビニール袋
- 預金通帳
- 印鑑
- 免許証
- 健康保険証
- ヘルメット(防災ずきん)

二次持ち出し品

- 缶詰
- レトルト食品
- ドライフーズ
- 栄養補助食品
- チョコレート、アメ(お菓子類)

その他の持ち出し品

- 毛布
- ラップ
- 寝袋
- 洗面用具
- 使い捨てカイロ
- ロープ
- 新聞紙
- 簡易トイレ
- 予備のめがね・使い捨てコンタクト
- 卓上コンロ
- 予備のガスボンベ
- 固形燃料
- バール・スコップなどの工具
- マスク
- トイレットペーパー
- ドライシャンプー
- バイク・自転車

その他、追加の持ち出し品

※ 記載がないものでも大切な持ち出し品は下に書いて準備しておきましょう。

-
-
-

最低限準備しておく目安の持ち出し品です。

※ 家族構成や地域性により、最低限準備しておきたい持ち出し品は異なります。家族でしっかりと話し合い、必要な持ち出し品を決めることがとても重要です。



準備していないとどうなるの!?

ポイント



災害はいつ起こるか分かりません。その時は突然やってきます。そんな時のための備えをしっかりと行っていますか? その備えがしっかりと出来ているかどうかで、あなた自身はもちろん、家族を守ることが出来るかどうかが決まると言っても過言ではありません。

必要なもの・準備しておきたいものをリスト化し、防災グッズとして欠かすことのできないものの一つである持ち出し品をしっかりと揃えておきましょう。

避難情報



避難情報の種類

市では、災害が発生し、または発生のおそれがある場合においては、皆様の安全を守るため避難の勧告や指示を行うことがあります。避難勧告や避難指示が出されたら、速やかに最寄の避難所に避難してください。

避難情報	住民の行動
自主避難	身の危険を感じた場合、避難情報の発令の有無にかかわらず、速やかに安全な場所へ避難してください。
避難準備・高齢者等避難開始	避難行動に時間を要する災害時要配慮者などは、避難場所等の安全な場所への避難行動を開始し、その他の方は、家族等との連絡や非常持出品の用意など避難の準備を開始する。
避難勧告	避難場所等の安全な場所への避難行動を開始する。
避難指示	直ちに避難行動に移るとともに、その余裕がない場合は生命を守る最低限の行動をとる。



避難所お問い合わせ先
いちき串木野市役所 TEL. 0996-32-3111

警察・消防	
いちき串木野警察署	TEL. 0996-33-0110
いちき串木野市消防本部	TEL. 0996-32-0119

情報の伝達経路

市では、災害が発生もしくは発生のおそれがある場合には、以下のように情報を伝達します。大雨の際には、テレビ、ラジオ、インターネットなどで河川の水位情報や雨量、洪水警報などの情報を早くから入手し、早めの避難を心がけましょう。

※デマに惑わされず、正しい情報入手を!!

いちき串木野市

避難情報



- 防災行政無線
- 市防災情報等メール
- 市ホームページ
- 広報車、消防車両
- テレビ、ラジオ など



市民のみなさん

いちき串木野市防災情報等メールサービス

市では、市民の皆さんがどこでも迅速に防災情報等を受け取れるよう、携帯電話やパソコンへ様々な防災情報等をメールで配信するサービスを提供しています。配信される情報は選ぶことができます。登録は無料です。ぜひご活用ください。
※メール受信にかかるデータ通信料は利用者の負担となります。

●配信情報(複数選択できます)

- 防災・安全・安心情報 …… 避難に関する防災情報など
- 子育て・福祉・医療情報 …… 子育て、福祉、医療など生活に欠かせない情報
- イベント情報 …… 市内で開催されるイベントの情報など
- その他行政情報 …… 上記以外の情報
- 行方不明者情報 …… 認知症の高齢者等の行方不明情報

●登録方法



●QRコードを読み取り、空メール(件名・本文不要)を送信してください。数分以内に、登録用URLが記載されたメールが届きます、メール本文に従い登録を実施して下さい。

※QRコード読み取りができない方は、bousai.ichikikushikino-city@raidens2.ktaiwork.jpに空メールを送信してください。

※迷惑メール防止機能をお使いの方は、登録する前に bousai@city.ichikikushikino.lg.jp からのメールを受信できるように設定する必要があります。なお、設定変更の方法がわからない場合は、販売店などにお問い合わせください。

雨量情報テレフォンサービス

いちき串木野市の雨量情報が知りたい場合

薩摩地方 **【099-214-7070】** をダイヤルしてください。

- 種別 **【1】** (市町村別雨量) を選択
 - ♪代表地点は【0】を、市町村ごとは【1】を押して下さい♪
- 地域 **【3】** (川薩・いちき串木野) を選択
 - ♪地域を選択して下さい。
 - ♪鹿児島・日置は【1】を、指宿・川辺は【2】を・・・押して下さい♪
- 市町村 **【3】** (いちき串木野市) を選択
 - ♪市町村を選択して下さい。
 - ♪薩摩川内市は【1】を、薩摩川内市甕島は【2】を・・・押して下さい♪



日頃からの備え

試してみてください

いざとなつて使い方が解らないということがないように、日頃より、家族と利用できるか確認しておくことも大切です。

避難所一覧

※表中にある○は、第一避難所。避難所の開設については市役所へお問合せください。

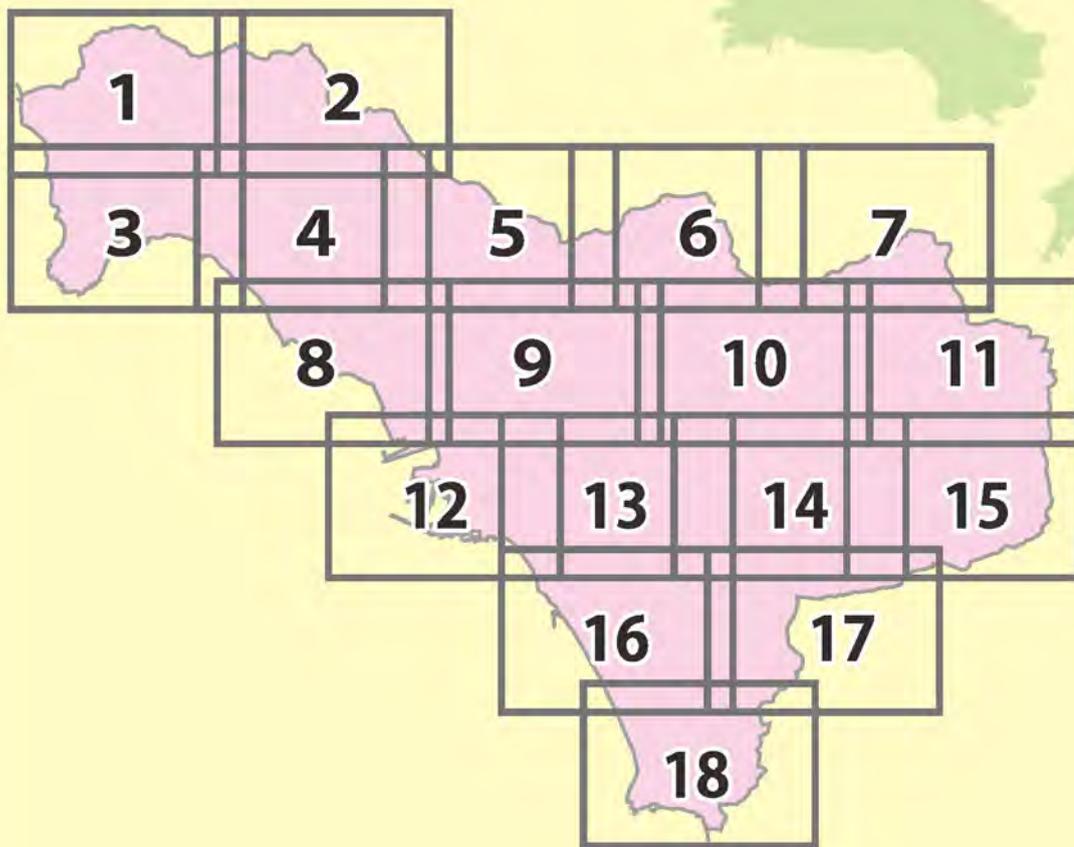
串木野地域

番号	施設名	所在地	電話番号	海抜	川内原発からの距離	対象地区
1	冠岳小学校体育館	冠岳12844-1	32-2688	114m	18.0km	冠岳
2	○冠岳交流センター	冠岳13511-2	32-0760	131m	18.2km	冠岳
3	○生福小学校体育館	生福8605	32-3307	30m	16.6km	生福
4	生冠中学校体育館	生福8551	32-3377	32m	16.7km	生福
5	○串木野中学校体育館	日出町700	32-1735	27m	15.3km	大原・上名
6	○上名交流センター	上名2455	32-8770	14m	15.4km	上名
7	串木野小学校体育館	日出町536	32-1738	23m	15.3km	大原・上名
8	○市民文化センター（中央公民館）	昭和通133-1	33-5655	14m	15.3km	大原
9	願船寺	栄町23	32-3006	12m	14.8km	中央・本浦
10	○中央交流センター	元町236	33-1231	6m	14.6km	中央
11	浄宝寺	本浜町38	32-2504	15m	14.6km	本浦
12	無量寺	西島平町375	32-1727	8m	15.9km	照島
13	○照島小学校体育館	照島5453-3	32-4446	8m	16.5km	照島
14	串木野養護学校体育館	八房1041	32-4105	22m	17.1km	照島
15	串木野体育センター	長崎町91	32-1899	7m	15.6km	照島・本浦
16	○串木野高齢者福祉センター	新生町183	32-9570	12m	15.4km	本浦
17	働く女性の家	新生町183	32-7130	12m	15.4km	本浦
18	串木野高等学校体育館	美住町65	32-2064	8m	15.5km	本浦・照島
19	○本浦交流センター	西浜町1-2	33-2371	2m	14.6km	本浦
20	○野平交流センター	平江20271-5	32-3050	4m	13.6km	野平
21	串木野西中学校体育館	平江20226-1	32-1744	8m	13.6km	野平
22	○羽島交流センター	羽島5218	35-0014	21m	8.4km	羽島
23	羽島小学校体育館	羽島5359	35-0009	15m	8.6km	羽島
24	○荒川交流センター	荒川12450	32-8809	32m	11.1km	荒川
25	荒川小学校体育館	荒川12347-1	32-2010	32m	11.0km	荒川
26	○旭交流センター	金山14103-1	32-8811	84m	13.6km	旭
27	旭小学校体育館	金山14067	32-1724	80m	13.5km	旭
28	芹ヶ野公民館	芹ヶ野15367-2	-	50m	13.7km	旭
29	○土川交流センター	羽島9675	35-0887	4m	6.2km	羽島
30	総合体育館	生福5298-3	32-8588	44m	16.2km	全地区

市来地域

番号	施設名	所在地	電話番号	海抜	川内原発からの距離	対象地区
31	市来体育館	大里5547-1	36-2881	3m	19.2km	大里
32	市来中学校体育館	大里3764	36-2056	3m	19.0km	大里
33	市来小学校体育館	大里3731	36-2006	2m	19.1km	大里
34	○川北交流センター	大里5664	-	5m	20.5km	川北
35	○川南交流センター	大里3246-1	-	9m	20.8km	川南
36	市来農芸高等学校体育館	湊町160	36-2341	4m	18.7km	湊
37	○いちきアクアホール	湊町1丁目102	21-5800	4m	18.3km	湊町
38	市来高齢者福祉センター	湊町1丁目102	36-4558	3m	18.3km	湊町
39	漁民会館	湊町1丁目103	36-2009	3m	18.2km	湊町
40	浄泉寺	湊町3丁目93	36-2102	5m	18.4km	湊町
41	西村寺	湊町1丁目95	36-2022	3m	18.1km	湊
42	市来保健センター	湊町1丁目115	36-5059	2m	18.2km	湊・湊町
43	市来保育園	湊町1丁目253	36-2166	2m	18.5km	湊
44	川上小学校体育館	川上1200	36-2044	10m	18.5km	川上
45	○川上交流センター	川上978	36-4334	22m	18.6km	川上
46	川上生活改善センター	川上1707	36-2918	28m	18.8km	川上
47	市来川上郵便局	川上1215-1	36-2221	11m	18.6km	川上

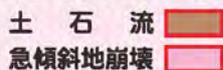
防災マップ索引図



防災マップの見方

土砂災害(急傾斜地・土石流)特別警戒区域

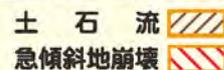
(通称:レッドゾーン)



土砂災害警戒区域(イエローゾーン)のうち、建築物に損壊が生じ、住民の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域であり、一定の開発行為の制限や居室を有する建築物の構造が規制されます。

土砂災害(急傾斜地・土石流)警戒区域

(通称:イエローゾーン)



土砂災害が発生した場合、住民の生命・身体に危害が生ずるおそれがあると認められている土地の区域であり、市町村による警戒避難体制の整備が義務づけられます。



避難所

災害の危険性があり避難した住民等や、災害により家に戻れなくなった住民等を滞在させるための施設



避難場所

災害が発生し、又は発生のおそれがある場合にその危険から逃れるための避難場所



津波／高潮



洪水／内水氾濫



土石流



崖崩れ・地すべり



大規模な火事

【家族・関係者連絡先】

下の表に記入しましょう。

続柄	氏名	連絡先
		() —
		() —
		() —
		() —
		() —



いちき串木野市役所

所在地

〒896-8601 鹿児島県いちき串木野市昭和通 133 番地 1

開庁時間：午前 8 時 30 分～午後 5 時 15 分(月～金曜日)

【祝・休日及び 12 月 29 日～ 1 月 3 日を除く】

TEL：0996-32-3111

FAX：0996-32-3124

URL:<http://www.city.ichikikushikino.lg.jp/>“ichikikushikino”

いちき串木野市役所

